



山口 敏子 議員

特定健診の受診率向上のため
イベントでPRブースの設置を

問

特定健診の受診率を高め、市民の健康を保持することを聞く。

- (1) 国民健康保険加入者の中で、対象者は何人か。
- (2) 21年度、県内の受診者は3人に1人である。

健康づくりフェスタの会場にPRコーナーがあれば、受診者が増加すると思うが、イベントは10月で終了している。

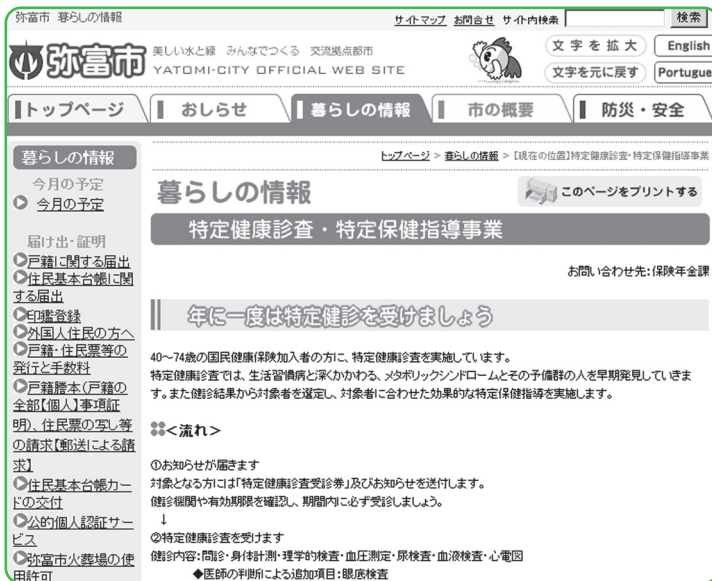
受診期間を11月末まで延ばせないか。

(3) 血液検査で行うペプシノゲン法を、市の胃がん検診に取り入れてはどうか。

(4) 検査結果が来ず、最終的に直接医療機関で確認した人がいた。

個人情報情報を慎重に取り扱ってほしいがどうか。

(5) 健康づくりフェスタで



答 保険年金課長

- (1) 被保険者1万1千811人のうち、年齢40〜74歳以下の対象者が8千137人である。
- (2) 海部津島医師会指定医療機関での健診は、6〜9月までである。

医師会との調整が必要なので、要望を伝える。海南病院の健診は5〜11月末まで、集団方式による健診は、7月〜翌年2月まで期間を設けている。

答 健康推進課長

(3) 胃がんの

死亡率減少効果の有無を判断する証拠が不十分で、国の指針も、胃部エックス線検査を示しており、バリウム検査が最適であると考えている。

(4) 今後は起こさないよう、

問

キャラクター入り
あめで市PRを

稲沢市は、イベントのとき、キャラクターの入ったあめを使っていると聞いた。市も「きんちゃん」のシールを貼ったお菓子がつくられている。あめもつくってはどうか。

前向きに検討したい

答 市長

いろんな形のものを考案し、広く市をPRすることは大変重要だろうと思っている。

担当課、または商工会と協議を重ねていきたい。前向きに検討したい。

今後検討していきたい

ブースを設け、PR活動をしてはどうか。